

2021/1/22-2

(うとQ世話し 今日ちょっと変な独り言)

今日は、ちょっと変な独り言です。

経済の仕組みもかなり分ってきた。

成功の法則らしきものもずいぶん見えてきた。

であるなら、儲かっているのも良い筈だ。

なのに、毎月の従業員給与や家賃の支払に四苦八苦している。

要するに出て行く物に対して入ってくる物が圧倒的足りていない。

それでも、今ひとつお金儲けや、その手段として著名になることに一向に気が向いていらない。

「なんで？」

と考えてみたところ

「いまいち、前向きになれる、積極的な意味が見いだせない」

「よし行くで、と迷うことなく進めない」

となりました。

平たく言うと

「勝ち組とか負け組というような判定基準で、勝ち組となって浮かれることを「よし」とすることが出来ない」

のです。

今の「経済」の中での「お金（もうけ）」は何だか嘘の塊の産物のような気がしてなりませんし、どうも知らぬ間に人様を不幸のどん底に蹴落としているような気がします。

そんなことをしてまでお金儲け（今の経済システムの中でのお金）をしていいのか？勝ち組なんかになって良いのか？

或いはまた、その手段として著名になると、表を歩くにも苦勞をして不自由なことの上ありません。

昔であれば、現代に於いて世界的に著名なレオナルドダビンチさんにせよ、我が国の松尾芭蕉さんにせよ、その当時は写真もビデオカメラもなかったので、顔を知られることなく街中や野原を自由に観察しながら誰の目線に気遣うことなく歩ける幸せがありました。

わざわざ窮屈になるために著名に中になってどうするんだ？

更に広告に関しては、昔は広報、告知止まりだった物が、いつの間にか宣伝主体になってしまっていました。

これは例えばおいしいから五つ星になったのであって、五つ星だからおいしいわけではないのに、後者を矢鱈と吹聴し、それが反感を買うと、今度はその「宣伝」を巧妙にすり替え、カモフラージュした「イメージ広告」などと言う妙なもので出てくる始末。

これって、ザックリ言って見てくれやセンスは磨かれてはきたが、何のことはない「相手を押しつけて、実は俺が一番なんだぜ」と言っているだけじゃないの？」

とか。

そうなる、なんか、そうしてまで苦勞して行っている数々の事どもが面倒くさいやら鬱陶しいやらになってしまい、どうしても「家業目掛けて一気呵成に本腰に入って行かない」のです。

それで気がつくと、本業以外の、従業員の私事の手伝いやら趣味の書き物やらにばかり時間を費やしてしまっている。

「だったら（本業を）やめれば？」

といわれそうですが、一つには最早自分一人の身ではなく、今お話しした従業員達の生活がありますし、今ひとつは、前向きになれる新しい「経済とお金」のシステムを探したいと思ってもおりますので、ここはそう簡単には

「はい、やめます」

とも言えないのです。

結構、辛いものがあるのです。

毎日の目覚めから、夜、床につくまでの間、ずっと。